

眼瞼痙攣，片側顔面痙攣の ボトックス治療



清澤源弘（清澤眼科医院院長）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

Introduction p2

1 眼瞼痙攣，片側顔面痙攣：ボトックス治療の目的の理解 p4

2 眼瞼痙攣，片側顔面痙攣：鑑別の重要性 p4

3 眼瞼痙攣の症候と診断 p4

4 片側顔面痙攣の症候と診断 p8

5 眼瞼・片側顔面痙攣における BTX 治療 p9

6 BTX 施注までの手順 p13

7 施注の実際 p14

8 観察期間と施注スケジュール p16

9 効果の出方と長期予後，および BTX 治療無効例への対処 p16

10 その他の注意：禁忌と慎重投与 p17

11 適切かつ有効な BTX 治療のために p18

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

Introduction

1 眼瞼痙攣，片側顔面痙攣のボトックス治療の目的と鑑別

- ・ A型ボツリヌス毒素 (BTX) 治療は，根治療法ではない。症状を緩和させることによって患者の quality of life, quality of vision を改善することが目的。
- ・ 施注には資格を要する。
- ・ 眼瞼痙攣，片側顔面痙攣の原因および症候は異なる疾患。発症初期には鑑別が困難な症例が存在する。片側顔面痙攣の原因には腫瘍や動脈瘤も含まれるため，2つの疾患の鑑別は重要。
- ・ BTXの施注部位や施注量，効果の持続にも違いが生ずる。

2 眼瞼痙攣と片側顔面痙攣の症候と診断

- ・ 眼瞼痙攣は，運動性症状のほか，感覚症状・精神症状も起こすことが特徴。
- ・ 片側顔面痙攣は，眼周囲の軽度の痙攣から発症し，周囲の顔面神経支配筋へ痙攣が進展，増悪する。
- ・ 眼瞼痙攣の診断には，「眼瞼痙攣調査質問表」，「随意瞬目テスト (誘発テスト)」，「米国国立精神保健研究所疫学的うつ尺度 (CES-D)」を用い，全身性疾患，眼科疾患の服薬歴，治療歴の聴取も必須。
- ・ 片側顔面痙攣では CISS 法による頭部 MRI の撮像が必須。

3 眼瞼痙攣と片側顔面痙攣における BTX 治療

- ・ BTX 治療は筋肉を緊張させている神経の働きを抑制し，特定部位の筋緊張を緩和する。
- ・ 眼瞼痙攣の治療では BTX 治療が第 1 選択。片側顔面痙攣においても症状緩和を希望する場合には，主要な選択肢。
- ・ 対症療法であること，効果の出方，全身性の合併症，費用の説明等，事前の説明が重要。

- ・BTXの手順は次のとおり。
 - ①同意書を取得し，施注に伴う疼痛，出血等の説明，場合によっては事前の疼痛対策。
 - ②自覚症状・瞬目テストの結果を参考に，施注部位，施注箇所を患者と相談の上で決定。
 - ③細めの注射針で浅めに，全体を速やかに終えるよう施注，疼痛を最小限に抑える。
 - ④施注箇所の速やかな止血で出血と浮腫も最小限に。
 - ⑤終了後の薬液は0.5%次亜塩素酸ナトリウム溶液を加え，薬液の触れた器具類とともに失活させ，密閉廃棄。
- ・観察期間と施注スケジュールは，初回は①翌日から2～3日後，②1週間後，③5週間後(翌月)，2回目以降は，1週間後，5週間後での経過観察。
- ・合併症が出た場合には，必ず受診するよう伝える。
- ・再施注は8週間以上の間隔で，それ以降は患者の希望と「瞬目テスト」を指標に再施注。
- ・患者自身の自己観察と，「瞬目テスト」の評価と併せて施注間隔，施注量をカスタマイズ。
- ・BTX治療無効例，効果減弱例には，薬剤治療等，他の治療の併用，または移行。

まとめ

- ・いずれの疾患も患者にとっては非常に辛いもの。
- ・適切な診断のもと，患者と話し合いながら，それぞれにカスタマイズしたBTX治療を。
- ・無効例，減弱例でも患者に寄り添いながら，他の治療法を試みていくべき。